

国際医療福祉大学審査学位論文(博士)

平成 28 年度大学院医療福祉学研究科博士課程・要旨

論文題目：居宅支援事業所のケアマネジャーの自立支援に対する意識と
ケアマネジメントの実践から浮かびあがる課題に関する研究

医療福祉学専攻 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野・ケアマネジメント学領域

氏名：泉洋枝

研究指導教員：竹内孝仁教授

キーワード：自立支援 ケアマネジャー ケアマネジメント 在宅生活

I. 研究の背景と目的

1) 背景

厚生労働省は、「介護支援専門員(ケアマネジャー)の資質向上と今後のあり方に関する検討会における議論の中間的な整理」(平成 25 年 1 月 7 日)において、ケアマネジャーによる適切なケアマネジメントは必要不可欠であり、その質の向上は不断に求められ、利用者の尊厳の保持を旨とした自立支援の実現が重要であることを改めて説き、介護保険の理念である「自立支援」の考え方が十分に共有できていないことを指摘した¹⁾。

高齢化が急速に進む中、在宅生活の限界点を高めて住み慣れた地域で暮らし続けるために、「自立支援」の実現の重要度が増し、上記のように、ケアマネジャーの資質向上が課題とされている。このような中、

①居宅支援事業所のケアマネジャーが、ケアマネジメントにおける「自立支援」をどのように捉え、また意識しているのか。②ケアマネジメントプロセスにおいて、どのように自立支援を叶える視点を持ち、実践に至っているのか。③①と②から発生する課題も含め、その実態を明らかにすることが必要であると考えた。

2) 目的

居宅支援事業所に所属するケアマネジャーのケアマネジメントにおける実践と要介護高齢者に対する自立支援の考え方や意識から課題を明らかにし、ケアマネジメントに必要な知識や技術に関する示唆を得ることを目的とした。

II 研究方法

1) 研究方法

【調査 1】 調査対象者は東京都内 23 区の居宅支援事業所 2552 箇所に勤務する全てのケアマネジャーとした。調査方法は郵送によるアンケート調査を実施した。調査内容は属性情報およびケアマネジャーの自立支援に対する意識と実践についての質問 10 項目とした。分析方法は単純集計、クロス集計・ χ^2 検定およびフィッシャーの正確確率検定を行った。

【調査 2】 調査対象者は東京都内の居宅支援事業所に勤務する日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャー 10 名(基礎資格福祉系 5 名 医療系 5 名)を対象とした。調査内容はケアマネジャーの自立支援に対する考え方や意識、その実践についてのインタビューを行った。分析方法は、次の手順で行った。①ICF レコーダによるインタビュー録音から逐語録を作成した。②各事例の全体像の把握と内容理解の上で、文脈に留意しながら、意味内容による切片化、次いでコード化を行った。③意味のある言葉で分類し下位カテゴリーを作成した。④抽象度を明確にするために中位カテゴリー、上位カテゴリー、最上位カテゴリーの分類作成を行った。

III. 倫理上の配慮

国際医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施した。承認番号 (15-Ig-60)

IV. 結果

【調査 1 の結果】 アンケートの配布数 2552 枚に 691 人分を回収した。そのうち有効回答は 670 人分(有効回答率 26.2%)であった。ケアマネジャーがケアマネジメントにおいて大切にしているものは、「尊厳の保持」440 名(65.7%)、「自立支援」は 419 名(62.5%)、「介護負担軽減」267(39.9%)の順の結果を示した。また、経験年数 10 年以上のケアマネジャーの方が、要介護高齢者

等（家族を含む）の気づいていない課題を総合的に判断し、また、ケアプランの目標においても、要介護高齢者等（家族を含む）の気づいていない課題を取り入れている人が多い傾向にあった。さらに、主任ケアマネジャーにおいても介護高齢者等（家族を含む）の気づいていない課題を総合的に判断している人が多い傾向にあり、認定ケアマネジャーにおいても、ケアプランの目標設定は、要介護高齢者の気づいていない課題を取り入れている人が多い傾向にあった。さらに自立支援は要介護高齢者等の在宅生活の継続に効果的であると回答したケアマネジャーが8割いた。

さらに、自立支援を目標にしたケアマネジメントにおいて優先順位の高い機能として、精神 27 名（41.0%）、身体 229 名（43.2%）、社会 69 名（10.3%）であった。その中で、身体機能を優先に考えているケアマネジャーは自立支援が「在宅生活継続に効果的である」と「家族支援の介護負担軽減に効果的である」と考える人が多い傾向にあった。また、「ケアプランの目標設定は要介護高齢者等（家族を含む）に基づいている人が多い傾向にあった。一方、社会的な機能を優先に考えるケアマネジャーは、自立支援が在宅生活継続に効果的ではないという人が多い傾向にあり、さらに、自立支援を踏まえた担当者会議や、モニタリングをしていないという人も多い傾向にあった。

【調査2の結果】インタビュー結果を整理分類、分析した結果、19の最上位カテゴリー【ケアマネジャーの思い】【違和感を覚え探究心の芽生え】【自立支援に視点をおいたニーズの見極め】【要望型ケアマネジャーへの違和感】【自立支援型ケアマネジメントの重要性】【自立支援の提案と合意形成】【サービス事業所との自立支援の実践】【自立支援への弊害】【一般的な自立支援の概念】【自立支援の実践】【自立支援への壁と振り返り】【自立支援を重要に考えるケアマネジャーの自立支援の概念】【自立支援において重要な家族支援】【在宅生活継続こそ自立支援】【家族支援と在宅生活継続支援の弊害】【自立支援の概念】【仕事のスタンスが自立支援】【介護保険への不満と課題】自立支援を叶えるための課題」と42の上位カテゴリーが抽出された。また最上位カテゴリーは、4つで構成されていた。1つ目が『自立支援型ケアマネジメント』の重要性を認識する過程、2つ目が自立支援型ケアマネジメントの実践と実践時の弊害を認識する課程、3つ目が自立支援型ケアマネジメントを実践したケアマネジャーの『自立支援』概念、4つ目が『自立支援』のへ課題であった。

V. 考察

1. ニーズを解決するために問題を明らかにする。経験年数や専門性に左右されることのないアセスメントが実施できるように、専門職としての手法およびシートの骨格を作りあげる必要がある。
2. 自立支援を叶えるためには、利用者家族への『合意形成能力』とサービス事業所への適切な『オーダー』をする能力を養う必要がある。
3. 『在宅生活継続のため』身体機能を優先に考えた、健康に関する知識と客観的な評価を基にケアマネジメントをしていく必要がある。
4. 『家族負担軽減のため』身体機能を優先に考え、家族のアセスメント能力を高める必要がある。
5. 【自立思念を重要に考えるケアマネジャーの自立支援の概念】は、【自立支援において重要な家族支援】と【在宅生活継続こそが自立支援】で構成され、[自由に生きてほしいという利用者の想い]を叶えるために[介護保険も必要ないほど元気により良い生活]を支援することこそが自立支援である。
6. 要介護高齢者の身体的機能を優先に捉えながら、社会的機能と精神的機能とのバランスを保ったケアマネジメントを行い、支援していくことが、本研究によって研究者が捉えた要介護高齢者の自立支援の定義である。

VI. 結語

ケアマネジャーは利用者家族の自己実現（その人らしさ）を目指したいと考えていた。そのために、身体的な機能を優先に捉えつつ、精神的機能と社会的機能のバランスを保ち支援し、その上で、家族支援と在宅継続支援を柱とする支援が、『自立支援』の要であることが本研究により明らかとなった。

VII. 文献

- 1) 厚生労働省 介護支援専門員(ケアマネジャー)の資質向上と今後のあり方に関する検討会. 2013. 介護支援専門員(ケアマネジャー)の資質向上と今後のあり方に関する検討会における議論の中間的な整理 平成 25 年 1 月 7 日.
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002s7f7-att/2r9852000002s7go.pdf> 2016. 10. 10